



弘法大師(空海)が高野山を開創した際に、母公・玉依御前が滞在した慈尊院に、必ず月に9度は下山したことから「九度山」と名付けられた。慈尊院から始まる高野山への道は、高野七口と呼ばれる7つの参詣道の主要道となり、九度山慈尊院は現在に至る千余年の間、高野山詣りの表玄関として、多くの参詣者がこの地を訪れた。2004年にはユネスコの世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として登録された。

弘法大師の母公が温かく見守る高野詣りの表玄関。

# 世界遺産 参詣道

# 真田幸村

戦国時代に名を轟かせた真紅の侍「日本一の兵」。

戦国時代、天下分け目の戦「関ヶ原の戦い」に敗れた真田幸村と父昌幸。高野山に蟄居させられたが、九度山へ移り住み、戦に備え兵術や文学を学んでいた。後に九度山から出兵し、「大坂冬の陣」では大阪城南側に出城「真田丸」を築城。押し寄せる大軍の大半を真田丸で撃破した。最期は圧倒的に不利と言われた戦い「大坂夏の陣」で敵軍13,000人に対し自軍は3,000人で挑み、敵将徳川家康が切腹を覚悟する所まで追い込んだが討死。後に「日本一の兵」と評された。

真田丸